

# 箕面ユネスコ協会 ニュースレター

発行 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟  
箕面ユネスコ協会事務局  
〒562-0013 箕面市坊島 4-5-20  
みのおキューズモール2Fみのお市民活動  
センター内 箕面ユネスコ協会 (メル・ブックス)  
E-mail sakappmm@skyblue.ocn.ne.jp



♪箕面ユネスコ協会の活動を  
載せています  
『箕面ユネスコ協会』  
で検索してください♡

♪毎月の定期便など たくさんの  
情報が載っています  
『日本ユネスコ協会連盟』  
で検索してください♡

## 【能登半島地震・能登半島豪雨災害 支援活動報告】

1月1日に発生した地震と9月21日からの豪雨と、複合災害を受けた石川県能登半島の早期の復興を願い10/16～10/18に現地でボランティア活動を行いました。

### ◆◆能登ボランティアに参加しました「創業百周年 珠洲 漆塗師」◆◆



今回、ユネスコのメンバー4人とボランティア活動で訪問した家が、漆塗師の方の工房でした。当日の朝、珠洲市ボランティアセンターで指示を受け、この家に到着すると、家の前には、使えなくなった冷蔵庫やソファ、家具などがかためられていました。その物資を軽トラに積み込み、珠洲市指定の廃材仮置き場に運ぶというのが、ボランティアの内容でした。能登では、1月の大地震、9月の豪雨という2つの自然災害に被災しました。私は5月、6月にも珠洲市でのボランティアをする機会がありました。そのときの支援活動は、5月には住民の安否確認と困りごとや体調の変化などの聞き取り活動、6月には、北芝太鼓集団とともに、炊き出し活動を行いました。1月の地震から月日が経つにつれて、徐々にではありますが、生活の再建などが進んでいるのだろうと思っていました。夏には、山車が出る伝統の祭りも開催されるとニュースもテレビで見ました。そうこうしているときの9月の豪雨災害です。仮設で暮らす人のところにまでも浸水したなどの情報を知り、本当に心が苦しくなりました。地元の人々はどんな思いしているのか、心が折れてしまっている人もいるのではないかと想像していました。被災された方々にどんな言葉がかけられるのだろうかと思っていました。「大変でしたね」では何を伝えられるのか、不安がありました。前回もそうでしたが、今回も被災された方々は、「そうなんです。大変でした。」と地震の話も豪雨の話も自分からどんどん話してくれました。家族や知人がなくなったこと、斎場が少なくて葬儀がすぐには行えなかったことなど……。私は聞いているだけでしたが、何か思いを吐き出しているように感じました。「いいものをお見せしましょう」と言って、工房に連れて行ってくれました。そこには1mほどの高さの山車の模型の実物がありました。黒色に塗られ金箔が施された立派なものです。「NHKが2回ほど取材きたよ」と教えてくれました。「今日、捨てるものを片付けてくれたので、少しは仕事にとりかかれるわ」と言ってくれました。ボランティアは人海戦術だと思います。多くの方が支援にはいることで、地元へ元気を届けられるのだろうと思いました。午後は、別の場所で泥のかき出しを行いました。 (栢木 修)



## 【能登半島地震・能登半島豪雨災害 支援活動報告】 パート2 ユースメンバーより

夜 10 時に大阪を出発し、早朝 5 時に能登に到着しました。道の駅で少し休憩をとった後、ボランティアセンターに行く前に海岸沿いを車で走りました。想像通りと言えば想像通りの景色で、一階部分が潰れてしまっ



た家や曲がったままの電柱を見ました。けれど、人の気配が全く無い様子は少し異様でした。

その後、ボランティアセンターにて本日の仕事内容を教えてもらい、いらなくなった家財道具を軽トラに積んで、災害廃棄物仮置場に持っていくというものでした。ソファや棚、すだれなど様々なものを軽トラに積んで廃棄物置場に持っていくのは難しい仕事ではなく、案外すぐに終わりました。けれど、依頼主の思い出を捨てているようでなんととも後味の悪い思いをしました。帰ってからは依頼主のお話を少し聞きました。漆塗りを仕事としていること、地震発生当時は孫を無ことに返そうと必死だったこと、自宅は全壊してしまって今は仕事場であったここに住んでいること、祭りのために毎年山車を作っていること。最後にぽつりと「地震があって祭りもできず、祭りの日に近所の人が集まることも無くなってさみしい」とおっしゃっていたことが印象的でした。現在進行形で珠洲のコミュニティが崩れていっている場面を目の当たりにしたような気がしました。午後からは、九月の豪雨で被害を受けたお宅の泥かきをしに行きました。午前中は海手が作業場所でしたが、午後からは山手が作業場ということで、はげ山になっている斜面や今にも崩れて落ちて来そうな木、ガードレールにたまった枝など少し違った景色を見ることができました。今回私がした作業は納屋の中の泥かきでしたが、それ以前は母屋の床下の泥かきをボランティアさんが行っていたそうです。ボランティアという存在の大きさを、ボランティアをすることで身に染みて感じました。一日を終えて思ったことは、思ったよりも復興の多くの部分をボランティアに依存していることです。これから超高齢化社会に突き進んでいく未来を想像したとき、これがスタンダードになっては災害から一人で立ち直れない日本になってしまうのではないかという危機感を感じました。



(川本 実弥)



### ● 箕面市立北小学校 5年生のみなさんと 『keep 5ing』 ~世界と出会おう編~

世界と出会い、いろいろな状況を知る活動を通して、自分たちのあり方をふり返ったり、何かできることはないかと考えたりする気持ちを育ててほしいと願い、協働授業を重ねています。7月に行った「SDGsって何？」の授業では、2024年度の日本のSDGs達成状況は世界 18 位で（国際的な組織「持続可能なソリューション・ネットワーク」による）目標をクリアしているのは GOAL9



のみという状況に驚きの声があがっていました。

9 月には、ネパールカトマンズにある学校と結んだオンライン授業を行いました。教科のこと、休み時間や給食のこと等インタビューしました。いちばん盛り上がったのは、クレヨンしんちゃんやドラえもんなど、漫画やアニメの話

です。日本文化が世界を結び付けてくれていることが分かりました。

10 月には、春日丘高校 2 年生の櫻井さんが、3 月のネパールボランティアツアーの話伝えて下さりました。カトマンズから何時間もかけて訪れた学校や村の様子に子どもたちは興味津々。質問の途切れない時間になりました。

(大濱 淳子)



#### ♪車はよく走っていますか？

~Q&A から少し紹介~

→都市部は車でいっぱいですが、山間部は道が狭いので車よりバイクが多いです。

#### ♪水はどうしましたか？

→水は貴重です。飲み水は山水を沸騰させて飲ませて下さいました。

外国人はミネラルウォーターの方が安心なようです。

#### ♪どうして外国に行こうと思いましたか？

→テレビとかで知る情報と実際は違うかもしれない、自分で確かめてみたいと思ったからです。



## ● 箕面ユネスコ「3.11を忘れない」こちゃございん東北ツアー



東日本大震災発災 8 ヶ月後に被災地に入ってから、毎年10月に欠かさず訪れて、はや13年となりました。

### ◆◆ 新メンバーからの感想 ◆◆

初めて東北ツアーに参加させていただきました。東日本大震災から13年が経過し、復興が進んだおかげで、当時テレビで観た景色とは違っていました。復興は進んでいますが、色々な場所を訪れ、震災で被害を受けた建物などを目の当たりにすると胸が締め付けられるような思いがしました。中でも南三陸防災対策庁舎跡は、何度も映像で観ていた建物でしたので、印象に残っていました。「最後まで防災無線で呼びかけを続けていた方がおられたことを忘れてはならない。東日本大震災を絶対に忘れてはならない」と改めて感じる場所でした。今回、見て感じたこと、聞いたことを発信することによって、今後の防災対策に繋がっていくのだと思います。私も微力ながら、発信していかななくてはならないと思いました。綺麗な海や景色があり、美味しい食べ物があり、東北の良さも感じる事ができました。人との出会いや、繋がりの重要性も学ぶことができた素敵な旅でもありました。



(苑田 芳寛、苑田 潤子)

### 「砂防堤について学び、美しい風景に癒され、美味しく、温かな交流最高！」



## ● 「災害支援ネットワーク会議」

NPO 法人市民活動フォーラムみのおは、公共施設みのお市民活動センターを管理運営しています。箕面ユネスコ協会とともに「3.11を忘れない東日本大震災復興支援チャリティ物産展」を協働で開催したり、災害時にボランティアセンターの機能を果たすことを念頭に置いて「災害支援ネットワーク会議」を箕面市社協と連携して関係団体と定期的に研修会議を開催したりしています。

今年も9月7日に箕面ユネスコ協会の坂口一美さんが、能登半島災害支援活動を中心とした、これまでの支援活動を紹介があり、ボランティアの役割や現地での支援の課題、連携の在り方などを聞き災害支援ネットワークとして備えるべきことを学ぼうと市民活動団体など30人が参加しました。参加者からは、ボランティアのリアルなお話を聞いて「実際に被災地で支援活動をしたい、箕面からでもできる支援の方法を考えたい」などの感想が寄せられました。

(須貝 昭子)



## ‘てらこーち’運営会議 開催！

### (U-Smile プログラム／地域協働型包括教育支援事業)

学校、らいとぴあ、箕面ユネスコ協会が、連携してプログラムをすすめているU-Smile 事業・てらこーちの運営委員会が開催されました。「この事業の現在と今後について」「学習支援をしている児童、生徒の個々について具体的な学校での状況」などを、学校、らいとぴあ、箕面ユネスコ協会で情報共有でき、とても良い運営会議となりました。萱野小学校の佐藤校長先生から「授業についていけず、課題を持つ児童が教室から出ることがなくなった。落ち着いた学習を行なえるようになったのは地域でも学習を積み上げて「わかった」が増えたおかげである」というお話や、箕面市立第2中学校の俵積田校長先生からも「自分たちは地域との連携は、当たり前のことだと思っている」と、うれしい言葉が続きました。他の先生方も頷いてくださっていたことに、平日の時間帯で、学校が運営に関わっていただくことの負担を心配しておりましたが、地道に積み上げてきた、地域でのゆるやかなネットワークや学校との信頼関係の大切さをあらためて痛感しました。（坂口 一美）



### ◆◆てらこーち運営会議◆◆ 日本ユネスコ協会連盟 野上葉子さんより

学校・地域・箕面ユネスコ協会の皆さんが、子どもたちの様子やてらこーちの講師の声を共有し、てらこーち運営のための改善策、今後の体験活動などを熱心に議論されていました。学校の先生方から「授業についていけずに立ち歩く子どもが減っており、地域で個別にみてもらうことで『わかる』が積み上がってきている成果だ」とのお言葉もあり、他地域では見られないような学校と地域・ユネスコ協会との信頼関係の大きさを感じました。

## アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

東日本大震災の経験や教訓を全国の学校防災につなげることを目的に、日本各地で今後起こりうるさまざまな自然災害に備えるための減災・防災教育に取り組む全国の学校を日本ユネスコ協会連盟ではアクサ生命と協働で応援しています。



2024年度の助成校30校が決定しましたが、昨年

度より創設された「ユネスコ協会協働枠」では4校が選出されました。この「ユネスコ協会協働枠」で箕面市にあるアサンプション国際小学校が助成校となりました。9月19日～21日宮城県仙台市・気仙沼市においてアクサ減災教育研修会が開催され、アサンプション国際小学校からは、5年生の担任をされている防災担当の三上先生が参加され、箕面ユネスコから坂口が参加しました。研修会3日目のグループワークはとても、熱のこもったものでした。（坂口 一美）



### お知らせ

「かやのお宝人権まつり」開催  
2004年11月16日(土)午前10より  
場所:らいとぴあ21  
箕面ユネスコ「さんま祭り」を行います!  
皆さん～ぜひ来てください